

取組例 1 合同保育・授業研究会の開催で互いの教育・保育観を知り理解し合う

秋の涼しくなってきた頃、小学校1年生と園児による合同保育・授業研究会が開催された。提案者は小学校側で、生活科単元「昔の遊びを楽しもう」において、地域の高齢者から学んだ昔の遊びを楽しむ際、小学校と幼保連携型認定こども園で指導案を共同で作成し臨んだ。

互いの教育・保育観の違いやよさに気付いた指導案づくり

企画から当日実施を含めて、実に5回も集う機会が設けられた。

指導案の様式は、活動の流れを挟むように左側を小学校、右側に幼保連携型認定こども園の指導上の留意点を記載した。

4 本時の活動								
〇〇〇〇小 学 校				〇〇〇〇園				
(1) 小単元名 「ようこそ ねんちょうさん」				(1) 活動名 「しょうがっこうであそぼう」				
(2) 本時の目標 遊び方を工夫しながら園児と楽しく交流することができる。				(2) ねらい 小学校のお兄さんやお姉さんと仲良くなる。				
(3) 目指す子供の姿 園児と遊ぶ場面において、声掛けや遊び方を教えることで、思いやりの心が芽生える子供。				(3) 援助の視点 1年生と関わることで、優しくしてもらえたり、遊んでくれたりしたことについて感謝の気持ちが芽生えるようにする。				
(4) 本時の展開								
評価基準 評価方法		小学校教師の支援		過程 導入 (5分)	(小・園) 学習活動・児童の活動	〇予想される園児の反応	保育教諭の支援	
		T1	T2				T3	T4
行動観察 発言	・前時を振り返り、指示物を見ながらルール説明や園児への声掛けを要請させる。 ・児童にめあてを提示させ、活動の流れを確認する。	・めあてを提示する。 ・タイマーセットスタンバイ	〇「わくわくするな」 〇「もっと仲良くなりたい」 〇「ちゃんとルールを覚えてあげよう」	1. はじまりの歌を歌う 児童と園児がペアになって、ダンスをしながら歌う。(準備運動も兼ねて行う) 2. 今日のめあての確認 〔小〕遊びを工夫して仲良く遊ぶ 〔園〕みんなと仲良く遊ぶ	〇「楽しみだな」 〇「どんな遊びをするのかな」 〇「お兄さんたち優しくしてくれるかな」 〇「仲良くしたい」	・1年生がめあてを確認した後、園児に「一緒に遊ぶからね」と声かけをする。	・はじまりの歌を歌いながらダンスを楽しむように声をかける。	
行動観察 つぶやき	・各遊びコーナーの様子を円周に行われている児童を見回り、つまみ食いしている子には具体的アドバイスをする。 ・グループで協力したり、よいやり取りをしていた児童の言動を褒め付ける。 ・必要に応じて、説明を支援する。	・ルールを説明する場面 〇「どんなふうに参加すればよかったらええかな？」 ・児童と遊ぶ場面 〇「おもしろいやるとビックリさせるだろうから、園児に合わせて遊ぼう」 ・参加できない園児に対する場面 〇「どうすれば一緒に遊んでくれるかな？」	3. みんなで遊ぶ ①「じゃんけん列車」 ②「色あそび」 ③「はなまるもんめ」 ④「園児にルールをわかりやすく説明する」 〔小〕小学生の説明をしっかりと聞いて参加する	〇「お兄ちゃんやお姉ちゃんはみんなの前で大きな声で説明ができてすごいな」 〇「わからないときはお兄ちゃんたちに聞いてみよう」	・1年生に分らないことやしてほしくないことなど自分の思いを言葉で伝えられるように支援する。 ・異業でのやり取りの様子を見守り、必要に応じて言葉を添えたり、一緒に伝える機会をつくったりしていく。 ・何をしてよいかわからなくなる子もいるので、1年生の協力も得ながら遊びに参加できるようにする。			
表情観察 発表	・前時で話し合ったことを確認して活動し、園児との関わりの中で思ったことや工夫したことなどを発表させる。	・重宝の音楽をスタンバイ ・自分の思いを園児で書けない児童への支援 〇「もっと遊びたいな」 〇「とても楽しんできてわかんないな」 〇「今度は、違う遊びをもっとやってみたい」 〇「説明するのって難しいと思った」	4. 今日の振り返り 〔小〕リーダーは発見ノートを配る →振り返りを書く 〔小〕小学生の様子を見ている 5. 終わりの会 〔小〕振り返りの発表 〔園〕感想発表 〔小〕相手の話を最後まで聞く	〇「お兄ちゃんたちが優しく教えてくれてうれしかった」 〇「早く1年生になりたいと思った」 〇「お兄ちゃんたちと遊んでとても楽しかった」	・1年生と一緒に活動した園児の思いを引き出しながら言葉を添え援助したり言葉で伝える。 ・1年生の成長の喜びを伝える。	・重宝の音楽をかける。 ・異業を和らげるように励ましながらい言葉を持って発表できるようにする。		

(図) 実際の指導案

< 指導案の作成を通して >

指導案の作成を通して、小学校側が気付いたことは、文章表現の語尾が小学校に「～させる」「～できるようにする」といった「使役」表現が多かったことである。幼保連携型認定こども園は、「～する場を設定する」「～したくなるようにする」など園児が自ら動き出せるように何をしていくのかを表現していることが挙げられた。

また、幼保連携型認定こども園側が気付いたことは、一斉指導の在り方が小学校側は説明をキーワードにして分かりやすく説明していたことなどであった。

指導法の違いについても、小学校では、多くの人数を限られた時間で動かすことから、まとめて説明したり、教師があらかじめグループを決めておいたりして、活動が平等になるような配慮がある場合がほとんどである。

しかし、幼保連携型認定こども園では、きっかけとなる場面を設定して、園児の反応を見て環境の構成を工夫していく。小学校との違いは、園児の興味や関心を重視した活動となっていることである。

このような違いが出る理由として、小学校は学習活動に対して評価規準に則った評価を行う必要があるため、活動の機会を確保していくことになるからである。

互いの教育・保育観を知るには授業（教育・保育）作りが効果的であったと振り返りで聞かれた。

< 事前の打合せと事後の振り返りを行うことの効果 >

授業当日に向けて、幼保連携型認定こども園の職員と小学校の教職員同士で事前の打合を 4 回行い、当日を迎えた。事後の振り返りは、授業当日の午後に 1 時間程度の時間を設けて実施した。

幼保連携型認定こども園の職員と小学校の教職員間での事前の打合せでは、下記の内容が中心であった。

回	場所	内 容
1 回目	小学校	顔合わせ。小学校側からの授業内容について提案。 児童や園児の実態を共有する。
2 回目	幼保連携型 認定こども園	小学校側が幼保連携型認定こども園で保育参観を行ってからの打合せ。 ねらいは園の様子を知ってもらうこと。 授業参観後、互いの指導案を合わせる。役割の確認。
3 回目	小学校	幼保連携型認定こども園側が小学校で授業参観を行ってからの打合せ。 ねらいは小学校の様子を知ってもらうこと。 当日の準備物についての確認。
4 回目	小学校	授業前日に最終打合せ。当日の流れの確認。

事後の振り返りについては、授業当日に行ったことで、互いの思いが冷めやらぬ中、活発に意見交換ができた。幼保連携型認定こども園も小学校も「もう一度、この機会がほしい」と願ったことが何よりの成果であった。幼保連携型認定こども園側は、送り出した園児の成長した姿も見ることができたし、小学校は、次に迎え入れる児童の姿を目にすることができた。

当初の予定では、2 回程度の打合せの予定であった。しかし、小学校と幼保連携型認定こども園の指導方法の違いが見えてきたことから、急遽、小学校と幼保連携型認定こども園の参観を予定した。まずは、互いの指導を見る必要があると考えたからである。

成果としては、小学校側が乳幼児期の学びを知ることで、今、目の前にいる児童に対する理解が深まったことだった。また、園側にも収穫があった。それは、小学校の学習の流れを知ることで、効果的な一斉指導の在り方について考える機会となった。

この交流では、保育教諭等は、幼保連携型認定こども園の教育及び保育の先にある子どもの姿を見ることで、今行っている教育及び保育の中で何を大切にしていけるのかを改めて確認できました。また、小学校教師は、教育及び保育で経験していることや援助方法などを知り、経験してきたことを生かした小学校教育の進め方を考えていくことができました。授業、教育及び保育のよさを学び合うことで、今後の指導に生かすことができ、互惠性のある交流となりました。

幼保連携型認定こども園の教育及び保育と小学校教育の「接続」に必要なことは、まずは、「互いを知ること」につきますでしょう。互いを知れば、「違い」や「共通点」が見えてきて、そこから「つながる」部分が見えてくるようになるのかと感じられた実践でした。

取組例2 「お招き授業参観」で児童と保育教諭等の交流が実現

4月末に小学校側が、送り出した園の保育教諭等を招いて授業参観を開催した。保育教諭等は小学校入学後の様子が気になることが多く、各自時間を調整して参加したためか、参加者は多かった。

< 園児の成長や実態を共有する >

児童にとっては懐かしい保育教諭等の顔が見られて、最初は興奮気味であったが、しっかりと成長した姿を見せようと張り切る児童、ふと園生活を思い出して甘えた表情を見せる児童と様々な姿が見られた。

1時間の授業参観後、小学校の研修室に集まり、児童の成長や実態について保育教諭等から気付いたことを伝えてもらった。また、今になって見えてきた小学校教師からの困り感や戸惑いを伝え、情報共有ができた。

< 保育教諭等から気付いたこと >

○入学してわずか1か月あまりで、集中して学習に取り組んでいる姿に驚いた。

○園では、元気いっぱいだった園児が、周りを気にしているのか、少し元気がなかった。何か不安なことがあるのかかもしれない。

○小学校では、「やるべきこと」が多すぎて、園児たちの「やりたいこと」につながっているのかが心配になった。休み時間は、自由に「やりたいこと」を保障してあげてほしい。

< 小学校教師からの意見 >

- 鉛筆の持ち方が定着するのに時間がかかる子が多い。お箸やスプーンの持ち方が鉛筆の持ち方にもつながっていくということを、家庭にも伝えるなどしながら、正しく扱えるようになるとよいのではないか。
- 挨拶や返事は上手だが、困ったときに「教えてください」や「分かりません」が言えず、黙ってしまう子が多い。困ったときの対処法を園ではどのように指導していたのかを知りたい。
- 園で教えてもらったことを小学校でも生かそうとしている。幼児期で学んだことや習慣は小学校でも見られるし、基礎となっていると実感している。

これらの取組のように、小学校の教職員が、幼保連携型認定こども園の教育及び保育の中で大切にしていることや育っているものを知ったり、園の職員が、小学校生活や授業の進め方を知ったりするなど、互いの教育などの在り方を理解し合っていくことが、幼保連携型認定こども園の教育及び保育と小学校教育の接続において、まずは重要なことであると言えます。

新しい生活の中で自分の力を十分に発揮できるような教育及び保育とは

乳幼児期は、遊びの中に様々な学びがあります。幼保連携型認定こども園と小学校では、学び方や時間の流れなどの環境が異なっています。また、乳幼児期と児童期では子どもの実態が違うため、生活の仕方や学び方に違いが見られる場面が多くあるでしょう。子どもの発達状況や成長の過程に応じて、その時期にふさわしい生活が保障されていくことが重要です。

幼保連携型認定こども園の教育及び保育においては、小学校教育を見通して、特に、生活環境が変わったときに、様々なことを感じながらも、自分なりに考えたり工夫したりしながら最後までやり抜く力など、新しい生活の中で自分の力を十分に発揮しながら意欲的に活動を進めていくことができるような園児の姿を育てていくことが、大切なことではないでしょうか。

小学校での学び方を取り入れたり、小学校の授業に向けての練習をしたり、保育教諭等による一方的な教育及び保育を展開したりするのではなく、幼保連携型認定こども園の教育及び保育で大切にしたいことを改めて意識し、乳幼児期にふさわしい生活の中で「環境を通して行う教育及び保育」を実現していけるよう、幼保連携型認定こ

ども園での教育及び保育の内容を検討し、工夫しながら環境を構成していきたいものです。

園児が主体的に環境に関わり遊ぶ中で、様々なことへの気付きや発見、試しや工夫を経験したり、不思議だな、どうしてだろうなどと感じたり、自分なりに表現することを楽しんだり、繰り返し挑戦する中で友達と協力する大切さや相手との心地よい関わり方に気付いたり、活動を通して達成感や満足感を十分に味わったりしていくことなどは、幼保連携型認定こども園における「環境を通して行う教育及び保育」で大切にしていきたいものです。幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育みたい資質・能力をしっかりと育てていくことができるよう、園児の体験が豊かになる環境を構成しながら教育及び保育を進めていくことが大切です。